

J 情報・環境

提言内容

社会の変化に対応し持続可能な社会の創り手となる力を育む情報教育、環境教育の充実に関する提言

分科会の趣旨

社会の急激な変化の中で、自分のよさや他者の価値を尊重し、協働しながら豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。そのために、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成ができるように教育課程を編成していく必要がある。

新学習指導要領では、教科等横断的な視点に立った資質・能力として、「言語能力・情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」と「豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて、次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」を示している。

前者に含まれる情報活用能力を育成するには、コンピュータをはじめとする情報通信ネットワークの環境整備や、それらを適切に活用した学習活動の充実が必要であり、プログラミング的思考等の育成も大切な視点である。また、後者の現代的な諸課題には、環境、貧困、人権、平和、開発などがあげられ、環境学習は其中で中核的な分野となっている。

そこで、本分科会では、教科等横断的な視点に立った資質・能力を育成するために、情報教育や環境教育を校長の立場からどのように推進するかについて具体的方策を明らかにし、提言する。

分散会の視点

第19分散会

情報社会を生き抜く子どもを育てる情報教育の推進（情報ツールの活用や情報モラルも含めて）

高度情報社会に対応する子どもの力を育むためには、情報教育の推進が重要である。

現在、情報教育の推進状況は、地域によって差が出ている現状がある。タブレット・電子黒板等の活用による授業改善の報告がある一方、ICT機器等の環境が十分に整っていない学校もある。また、学習ツールとして自由に活用するための環境整備、指導する教師のスキルや研修にも課題がある。

今後は、プログラミング的思考等の育成も、大切な視点となる。

本分散会では、こうした現状を進展させるために、学校の具体的な取組を通して、情報教育の在り方について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。

第20分散会

体験的・社会的な取組を通して課題意識や実践的意欲を高め、持続可能な社会の創り手を育む環境教育の推進

持続可能な社会を構築するためには、積極的に環境保全活動に取り組むことが重要である。

環境教育は、理科や社会科等の教科単元と関連して行われている。また、総合的な学習の時間や特別活動の中で行われる場合もあるが、その際、教科書がないため、実践は教師の創意工夫に任されている現状がある。従って、地域や学校、教師による実践の差は非常に大きい。しかし、新学習指導要領でも、環境教育は体験的・社会的な取組を通して、資質・能力を育てる重要性が明記されている分野の一つである。

本分散会では、環境教育の推進に向けた問題解決のために、学校で実践している具体的な取組を通して、環境教育の在り方について協議を深め、校長の役割と指導性を究明する。